

體、原體の性質病蚕の症狀、人の皮膚病及び分布に就き研究調査せる成績を記載せり、今其の成績を摘録すれば左の如し。

一、家蚕のベデクロイデス壁蝨の寄生に依り急速に軟化斃死するは同蟲の有する毒素の作用に由る。

二、此毒素は熱に對する抵抗力極めて強くして攝氏一〇〇度に於て五時間以上熱するにあらざれば毒力を破壊する能はず。又アルコールに沈澱し之を凝固せしむることを得。

三、此毒素は血球に對し溶血作用なし。

四、毒素は消食管に於ては毒作用なし。

五、ベデクロイデス壁蝨は亦人體に寄生し皮膚に麻疹性の疾患を發す。斯る皮膚病患者は養蚕家、麥取扱者中には少なからず。

六、ベデクロイデス壁蝨は現在までの調査に據れば次の一府一六縣下に分布存在す。

山形、熊本、長野、静岡、宮城、京都、山梨、神奈川、福島、新潟、青森、巖手、兵庫、鹿児島、愛媛、埼玉、岐阜。而して著者は此の壁蝨に因りて斃れたる蠶を、新に軟化病中に加へ之を「壁蝨病」と呼べり。

因に著者は題目を改にし、大麥中に見出されたる、ベデクロイデス壁蝨と同科なるタルソネーマス壁蝨の形態に就き調査し報告せり。而して此の壁蝨は蠶に害を與へざるものなるべしとせり。

(蠶業試験場報告、第三卷第六號、附圖一、大正七年)(石川金太郎)

○日本近海の石灰海綿類

理學士朴澤三三氏は近頃米國探檢船「アルバトロス」號が一九〇六年中に北西太平洋から採集した石灰海綿類を研究し、其結果を公にされた。標本は全部で十三種あり、中十一種は新種である。此著は以前同氏の理科大學記要で發表された者と共に、本邦沿海の此類に關する最も大切な論著である。

(Proc. U. S. Nat. Mus., 54, pp. 525-556, Pls. 84-85, 1918.) (駒井卓)

雜 錄

○英國同學諸先輩の消息

本誌第三百〇三號に米國諸先輩の消息を報じ置けり此稿はその續篇にして大正二年夏より同三年春まで予の滯英中好意を受けたる諸先輩の消息を記述し筐底に藏し居たりしもの、其儘反古籠に投入するは何となく不本意の感あるを以て稍々舊聞を顧みず我が學界に報ぜんとするなり。讀者幸ひに之を諒せよ。

ゼー、ビー、ヒル教授、倫敦に着いて第一番に訪問したのは同教授であつた。倫敦大學の動物科の主任をして居られる、Comparative Embryology に多くの貢獻をせられた事は既によく知られて居る所である。丁度私が訪問した時は、同教授が四ヶ月間のブラジル旅行より歸られ

た際であつたので、旅行談を伺ひ又採集標本を見る事を得たのは幸ひであつた。採集物の中で蛙の種類はすべて活きたまゝ運搬されて居た。自から教室内を案内さるゝ道すがら『アナタの國には自分の専門の方で趣味ある *Chlamydoselachus* が居る、又此頃捕鯨業が盛んだといふ事を知りて居るが、誰方かあれの Embryo の研究をして居らるゝ人がありますか、當方では材料を得る事が出来ない、自分の知る限りでは獨逸の W. KÜCKENHEAL 氏の論文がある丈だと記憶して居る、それも只外形の記載に過ぎぬ』などと語られた。

プーランチャー博士、倫敦に前後約半ケ年居つた間、毎日サウス、ケンシントンのブリチッシュ、ミューゼウムに通つた、館長ヘッチャー氏の厚意により各部何れの圖書室へも自由に出入することを許され大に好都合であつた。プーランチャー博士は何時でも遇ふ度毎に笑顔で迎へられた、自分が助力することがあれば何んでも言つて來玉へなど言つて下さる、毎日地下室の研究室で兩棲類や魚類をいぢつて居らるゝ、最近の著書では『歐洲の蛇類』といふのが出た、これは既に日本にも來て居る事と思ふ。魚類標本室の方ではテート、レーゲン氏が主管をして居らるゝ、同氏に案内されて標本室を見たが、ギンテール博士の『カタローグ』で知られて居る通り種類の多いことと好く整頓されて居る事は特更に紹介するの要はない、あの『カタローグ』の出來た時より今日迄新加されたもの

(續) ○英國同學諸先輩の消息

も又夥多しい數であるがレーゲン氏はこれら無數の標本を「カード、システム」にて整理し必要のある時は何の標本でも直ちに出来る様になつて居ると語られた、丁度私に滞在の中に「サーデン、ケース」といふ一裁判事件が倫敦の法庭に現はれて、レーゲン氏は科學者として證人に呼ばれて屢々法庭に行かれた、同氏に誘はれて私も二度許り同伴して傍聴した。水産上珍らし問題ではないが、商賣の方では關係が大きいので原告被告共非常の入用を費やして爭論した、昨年の三月に判決があつたのだから、約半ケ年續いた裁判であつた。事件の内容を一口に言つて見ると、フランスとノールエーのサーデンの爭である、近年非常な勢を以て諾威のサーデンと稱し「スブラット」を油浸けにした罐詰が倫敦の市場にはびこり、價が安いので賣行もよろしい。佛國側にとりては大打撃である。そこで別種の魚をサーデンと稱するのは所謂牛頭をかゝげて馬肉を賣るものなり、罐詰の内容と表記せる名目と異つて居るのは食物條例違反なりといふので抗議を起したのである。諾威側では之に答へて成程諾威には *Clupea pilchardus* は産せない、所謂佛國產のものとは別種である。併し「メンハーデン」で造る「アメリカン、サーデン」、其他日本の「サーデン」、印度の「サーデン」など言つて市場に販賣せられて居るではないか、これらは皆別種の魚類から造られて居るのだといつたのでレーゲン氏は裁判長より日本の「まいはし」のことを尋ねられ

(彙 録) ○英國同輩諸先輩の消息

博物館所蔵の標本を持つて行つて説明せられた。其當時ブイランチャー博士は此「サーヂン、ケース」に就いて自分に語らるゝには既に瑞西の様な海のない國でも瑞西の「サーヂン」と稱し淡水魚を油浸けとした鱧詰を賣つて居る、此度の争論は如何にも子供らしい議論であると思ふなどと言はれた。

魚類學者として世界に知られて居るギンテール博士は當時八十七歳の高齢である、博物館の方は既に隠退せられ、倫敦の郊外にて皇室の別邸ある景色の佳いキュー、ガーンテンに閑居せられ眼疾のために最早讀書せらるゝすら出来ぬとテート、レーゲン氏から聞きました。歸朝後其計の報ありしは誠にお氣の毒な次第である。

軟體動物の部では永年擔當されて居たスミス氏勇退せられ、若手のジー、エー、ロブソン氏が代つて主管をして居らるゝ、同氏の好意により「Conchologia Iconica」に圖説せられて居る *Ostrea* 屬各種標本の正物を見る事を得たのは非常に有益であつた。

博物館内に新しい陳列は、サー、スコットの南極探險隊博物採集標本と飛行機研究に資するために「Flight」と題し鳥類や昆蟲の飛行器を説明した類集である。前者の中で珍らしいものと思つたのは二インチもある大きな *Sagitta* や、一二〇〇呎の海底から得たといふ Giant silicious sponge の標本で重量 Nearly half a ton あると説明してあつた、飯島先生へのお土産にしたいと思つた程

である

感心した事は此探險隊の一員として加入し、極地の生物や氷山などの實景を巧妙に撮影された Mr. PONTING の技工である。Orca gladiator の游泳状況やペンギン鳥の雪の中で其卵を抱いて居る所など天下一品の傑作である。又同氏の撮られた極地の活動寫真を見たが實にこれは永遠迄の好紀念であると思つた。

これは別な話したが一寸茲に書き添へて置く、サー、スコットの愛息當時六才のが一人ある、郷の遺言に彼をして博物學に興味を持たせる様にとの事があつたので、未亡人は毎週一回づゝ此博物館に愛息を伴れて來觀せらるゝ。所が此頃小さな海軍服の主人公は博物館に來るのが何より好きになつて、平常自宅で「ヤンチャ」をいつてダマをこねる事があると未亡人はそれではモーター博物館に伴れて行かないよといはるゝと直ちに「オトナ」にならるゝといふ事を聞きました、誠に近頃の美しい話ではありませぬか。

エッチ、エル、ゼームソン博士、近年専門に眞珠の研究をして居らるゝ、「Studies on pearl-oyster and pearls」と題する長論文を Proc. Zool. Soc. London の一九一二年六月號に發表された、又同年九月にダンテアーにて催會されし British Association for the Advancement of Science の年會に一論文を發表しハードマン博士の眞珠研究の所説を論駁されたので物議を生じた事がある。全博士に手紙でパンフレットを請求した時の返事に、アタタの倫敦滞

在中に是非一度會つて日本に於ける Shell-fish culture の話を聞きたいとの事であつたので、一日 Board of Education の事務室に訪問した。印度並に濠洲各地の眞珠の標本を見せられた、又一ツ支那産のものだといつて今迄に見た事のない Hight の短い扁平な眞珠介を見せられ、日本にもこれが居ますかなど尋ねられた。自分が紐育に居た時に濠洲産の蝶介に拇指大の介付眞珠を付けた立派な標本十五六枚を見た事があるといつたら、それは故 Saville Kent の仕事で Somerset (Torres Straits) 附近で造られたものである、其方法は祕密にされて居るが併し日本流の方法とアナログスなりと想像せられる。始めは一枚百弗にも賣れたとのことであつたが自分は其價の不當なるを信する。其後ケント氏の逝去と共に其事業も消えた様で後の話を聞かないと言はれた。最近に ALBERDES 氏の發表されし人工眞珠形成の論文 (No. 1. Anzeiger 一三年九月號) は多少理屈に叶つて居るではありませんが、併し實際出来るか出来ぬかは保證が出来ぬなどと語られか

アレン博士、大正二年の暮れにプリマスの臨海實驗所を訪問して同博士の厚遇を受けた。例の硅藻のビュア、カルチュアを續けて研究されて居た。此前に發表された時より今日は餘程進んだ新しい結果を得たといふ事を語られた。遠からずして又有益なる論文が出ると思ふ。プリマスは英國內の實驗所中最もよき地の利を占めて居

(續) ○クロジョウビタキに就て

るので、寒暖兩方の Fauna が居る。所謂佛國のサーヂンが捕れるかと思へば鯨の稚魚を捕へて水族槽に飼育されて居る。魚卵稚魚の研究には絶好の場所である。シタダル岩壁に建つて居る此實驗所から軍港内を見下ろす景色は眞に絶景である。文献の完備して居る事も美望に堪へぬ。博士は本棚の中に我が動物學雜誌の一部分の飾られて居るのを示され『日本語は吾等に取つては餘りに難澁であつて理解することは出来ぬ、併しこうして蒐集して置けば何時か役をすることがあると信する』と語られた。私はその意味深長なるを感謝した。此處には先年日本を訪問されたクロジョウセイ氏が海洋調査の仕事をして居らる。(了)

(妹尾秀實)

○クロジョウビタキに就て

子爵松平頼孝氏より近來朝鮮より得たる標本の内に所題の如き鳥が有つたからとて余に示された。余は本種は未だ我國の「あびあうな」には初めての鳥と思ふたに依つて此處に叙し合せて氏の好意を謝す。

記載、嘴及び脚は黒色。頭部、脊部、胸部及び翼の小雨覆は眞黒にして稍石盤青色を帯びた光澤がある。他の雨覆及び總ての風切はせびあ色にして大雨覆次列風切及び小翼羽には狭き淡褐色の縁がある。腰部上下尾筒及び尾羽はジョウビタキに見る如き赭赤色にして最上位の中央尾羽は先端に近くせびあ色を